

コーチングを活用した人材育成

赤星 誠美[†] 藤 也寸志*第76回国立病院総合医学会
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol.78 No. 1 (4-8) 2024

要旨

国立病院機構九州がんセンター（当院）では、2016年の新病院移転時に、「患者さんにもご家族にもスタッフにも優しい日本をリードするがん専門病院」を病院のビジョンとして掲げた。このビジョン実現の一環として、2016年より、毎年すべての多職種からなる約30チームが目標達成に向けて活動する「オール九州がんセンタープロジェクト」を推進している。さらに、このチーム活動の基本となるコミュニケーションの推進および次世代を担うリーダー育成を目的として、2018年より病院全体でコーチングプロジェクトを開始した。コーチングは、「対話を通して、相手の目標達成に必要なスキルや知識、考え方を備え、行動することを支援するプロセス」と定義づけられている。コーチング資格を有したコーチからコーチングを学んだ院内コーチとコーチングを受ける側との双方向の対話を通して、お互いを成長させて、さらにその変化が組織全体に波及していくことが期待される。当院のコーチングプロジェクトの特徴は、診療科長が看護師長へ、副看護部長が診療科長、検査技師長が看護師長へ等、職種や立場を越えたコーチングの仕組みが作られていることである。その結果、職種を越えたコミュニケーションへと発展し、すべての職員がチームの一員でありパートナーであるという認識の変化に繋がっている。看護部においては、コーチングを学んだ看護部長、副看護部長が看護師長へコーチングを行い、コーチングを受けた看護師長が副看護師長、スタッフへコーチングを行う等、成長を促す機会となり、人材育成へと繋がっていると考えられる。さらに、今後は個々の成長によってチーム力が向上し、成長し続ける組織へ変化していくことを期待する。

キーワード コーチング、コミュニケーション、人材育成

はじめに

国立病院機構九州がんセンター（当院）では、現院長が院長就任した2015年に新院長メッセージとし

て、「地域に根ざしたがんセンター」である一方で「世界へ目を向けたがんセンター」であることをvisionとして掲げた。また、「がん医療のプロフェッショナル」であることを意識し、当院の職員であること

国立病院機構九州がんセンター 看護部 *消化器外科（病院長） †看護師
著者連絡先：赤星誠美 国立病院機構九州がんセンター 看護部長
〒811-1395 福岡県福岡市南区野多目3丁目1番1号
e-mail : akahoshi.nobumi.dw@mail.hosp.go.jp
(2023年3月20日受付 2023年6月9日受理)
Human Resource Development using Coaching
Nobumi Akahoshi and Yasushi Toh
NHO Kyushu Medical Center
(Received Mar. 20, 2023, Accepted Jun. 9, 2023)
Key Words : coaching, communication, human resource development